

## 令和2年度 第2回魚津市総合教育会議 議事録

令和3年2月25日(木)

16:15~17:00

魚津市役所第1会議室

【出席者】市 長 村椿 晃  
副市長 四十万 隆一  
教育長 畠山 敏一  
教育委員 伊東 潤一郎、山浦 春美、片山 さゆり、松本 修治  
事務局 企画総務部長、教育委員会次長、学校教育課長、教育総務課総務係長、  
企画政策課長、地域協働課長、こども課長、水族博物館管理課長、  
埋没林博物館長、図書館長、給食センター所長

### 【議事録】

事務局	皆さんお揃いでございますので、ただ今から令和2年度魚津市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、魚津市長 村椿晃がご挨拶申し上げます。
市長	委員の皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。 令和3年度からスタートする第5次魚津市総合計画の目標達成に向け、6つの特定政策分野の取組を加速化させる施策に予算を重点配分し、また、未来を担う子ども達が、夢をもち、のびのび育つことができる環境づくりを推進するため「未来子ども特別枠」を位置づけ、課題解決への取組みに重点を置く予算を計上しました。 6つの特定政策分野のうち教育に関係する分野は「子育て環境・教育充実」があります。切れ目のない子育て支援の推進と確かな学力・豊かな心を育む教育の充実を図る事業を展開していきたいと思っています。 主な事業として、こどもの医療費助成を15歳から18歳まで拡大し、子育て世帯の経済的な負担を軽減し、子育て環境の充実を図りました。 また、タブレットがすべての児童生徒に配布され、そのタブレットを活用した授業の充実や教員の負担軽減を図るため、GIGAスクールサポーターを2名配置しました。 その他に、令和7年度の供用開始を目指している新しい市民プールでのプール授業実施を視野に入れ、プールの老朽化が進んでいる星の杜小学校をモデル校として、総合体育館温水プールで授業を実施いたします。 教育環境の充実は、基本的には子ども達の学ぶ環境の質をよくすることや、学ぶ内容についても意欲的な取組をやっていくということだと思っています。 委員の皆様にはいろいろな観点でアドバイスを頂きたいと思っておりますので本日はよろしく申し上げます。
事務局	それでは議事に入りたいと思います。ここからの議事の進行は、市長にお願いします。
市長	次第に沿って、魚津市教育振興基本計画について事務局から説明してください。

事務局	魚津市教育振興基本計画について説明
伊東委員	<p>市長が言われた GIGA スクールや ICT などの教育についての議論が必要だと思っています。</p> <p>私がとても興味があるのは、「家庭教育の役割」です。道具を活用するために誰が何をするのか、何のために道具を活用するのかという目線が必要です。</p> <p>現在の日本の ICT 環境は、10 年前は 1 周リードしていたが、ここ 10 年で 2 周半遅れているということが理解されていない。</p> <p>世界に通用するには、「ICT を活用する」ということではなく、必要なツールを開発するエンジニアが必要であると経済界では言われています。</p> <p>教える側の先生が、誰から伝え方を教わったらいいのかということを考えていかないとはいけません。</p> <p>プログラミング教育を行うにしても、最先端の方から何をしなければならないということを教えてもらわなければなりません。</p> <p>ロボットの手を動かすということだけを教えるのではなく、ロボットを動かすことによりどんなことに繋がっていくかということが重要です。</p> <p>どのような道具であればいいかという豊かな発想をどのように育むのか。ということを見直すと ICT 教育がもっと違ったものになると思います。</p> <p>ICT 教育をまず先生が教わるのか、それとも子どもが教わるのかということです。</p>
市長	家庭教育は難しくセンシティブなものがありますがいかがでしょうか。
伊東委員	家庭で行う教育をどのように家庭でやってもらうか。家庭教育を家庭でやってもらえば先生方の働き方改革に繋がります。教育委員会や P T A で家庭教育の理解を深めていかなければならないと思います。
山浦委員	<p>教育振興基本計画の中で気になった点が 2 点あります。</p> <p>不登校のデーターを見て、不登校の子どもたちが減らず、むしろ増えている状況です。全国的と比べても高い不登校率です。統合によるメリット、デメリットがあると思いますが、統合により不登校が増加していると思います。</p> <p>統合により小規模校から大規模校へ行くことになれば、不登校はある程度予想されます。小学校の不登校ですが平成 28 年度は平成 27 年度の 4 倍になっています。おそらく清流小学校の統合によるものではないかと思います。統合後、しばらくすれば落ち着いてくるのかなと思います。</p> <p>統合して清流小が 5 年、よつば小が 3 年、星の杜小が 2 年たちました。統合時は不登校が多かったかもしれませんが、細かな対応により落ち着いて不登校が減ってきていると思います。統合によるメリットが出てきているのか、そろそろ検証が必要になります。</p> <p>統合により切磋琢磨することになり、学力が向上したか調べてみるのが大切です。もちろん体力もそうですし、多くの子どもたちと関わることにより「たくましく生きる力」が育まれているとも思います。</p> <p>よつば小も 3 年がたつので検証ができるかなと思っています。</p>

市長	<p>統合の効果と課題を検証、改善点を見つけて解消していくということになりますね。</p>
片山委員	<p>コロナ禍にかかわらずコミュニケーション能力が子ども時代から社会人に至るまでとても重要です。全国的にもですが、ここ1、2年コロナ禍により様々な経験ができなかったことによる影響がどのように出てくるのかなと思っています。</p> <p>人と人に関わりはとても大事で、勉強ができるとかいうことよりも、社会人になった今の若い子を見ていると、もちろん若い子だけではないですが、コミュニケーションをとって円滑に進めることが経済的なことにも波及していくと思います。</p> <p>私としては、勉強も大事ですが、総合的に考える力を鍛えていって欲しいと思います。自分の言いたいことを伝える力が必要だと思います。</p>
市長	<p>対話的学習ということになりますかね。物事について、話し合いながら、対応していくという学習になりますかね。</p>
松本委員	<p>いつも思っていることですが、学校は子ども達にとって楽しいところであってほしいです。もちろん先生にとっても楽しいところであるべきです。先生がにこにこしていなければ子どもは楽しくありません。</p> <p>子どもの楽しい様子は親に伝わり、学校の信頼度も上がります。</p> <p>知的好奇心が満たされる場所が学校であり、また、芸術鑑賞で感激を受けることができる環境を作ってやればよいなと思っています。</p> <p>この10年間は、今まで以上のスピードで社会も学校大きく変わると思います。この10年間で一番子どもたちに求めているのは、たくましさやしなやかに物事を考える。柔軟にそして創造的に考えていくような力を子どもに身に付けさせたいと思います。</p> <p>今後の10年のキーワードとして「しななかさ」と思っています。具体的にどのようにすればいいか、この場では言えませんが、困ったことがあっても、心が折れないで、友達と相談しながらなんとか解決していくような「しなやかさ」を身に付けさせるように周りが考えていかなければならないと思います、</p>
教育長	<p>皆さんからたくさんご意見を頂きました。教育振興基本計画を教育大綱として確認していただければと思います。</p>
市長	<p>市民の皆様には計画内容のことをどのように伝えていったらいいかなと考えています。</p>
伊東委員	<p>先ほど、教育委員会議でこの計画は誰に向かって何をしてほしいかということをお話していました。経済同友会の提案書には、誰に何をしてほしいかということをおわかりやすく記載して伝えていったらいいのではということになりました。</p> <p>道徳力、人間力、たくましく生きる力は学校の先生が行うのではなく、家庭が行うべきものです。親に伝えたいことは、PTAの役員会議などにより保護者へ伝えることができると思います。</p>
教育長	<p>PTAは子育てをどのようにしていけばよいかと考えるととても大事な組織です。</p>

松本委員	県の会議でもPTA会長が総会などで家庭教育が基本であり、親として保護者として学校をバックアップしていかなければならないということをお話ししておられます。
伊東委員	学校にとって保護者は協力会社であると思います。そのような立ち位置を伝えていくことが必要かなと思います。
山浦委員	策定委員が団体に戻って、各団体が総会などで自分たちが頑張るべきものを広めてほしいと思います。
松本委員	団体に配布するときに計画の作成の意図が書いてあればわかりやすいかなと思います。
市長	総合経過の審議会においても、どのように市民に伝えるのかという話があり、伝え方や伝える努力が必要という話になりました。 どの計画も策定後は、しっかり実行していきたいと思っています。 教育振興基本計画を教育大綱に位置づけるということで最終確認したいと思います。  時間となりました。本日はありがとうございました。